

## 1. 現状認識

小矢部市の人口は昭和60年の37,000人をピークとして、減少し続けており、統計的には8年後の平成26年には約30,000人になると推測されています。また、そのうち、高齢人口(65歳以上)比率は24.8%(平成15年現在)全国平均より5.8ポイント高い状況にあります。

今日急激な時代変化の中で、行財政改革の実施が重要な課題となっており、思い切った行財政改革・意識改革に取り組み、経費の節減と業務の効率化を推進することが急務と考えてます。

## 2. 目指す姿:長期構想

市の第5次総合計画は、後期5ヵ年計画が今年度スタートしたばかりであるが、第5次総合計画の策定時から6~7年経過している。時代変化のスピードの激しい現在、新しい総合計画を策定するタイミングとして、決して早すぎることはない。

平成19年度から新しい総合計画づくりの準備に着手したい。19年度は、地区ごとはもちろん、福祉、企業、農業など各界各層の方々から市民の声をしっかり聴きたい。また、ときには、夜、車座になって、ごんべい酒でも飲みながら、みんなで小矢部市の未来や夢を語り合いたい。

そして20年度スタートの新総合計画を市民のみなさまとともに策定し、その中で長期構想も盛り込みたい。

## 3. すぐに行う重要施策:優先順に3つ

### 行財政改革の推進

財政改革は待ったなしです。これは地方自治のエキスパートとして35年以上、働かせていただいた私がいま痛切に感じていることです。夢あふれる子供に対し、その親が愛情を注ぐように、時に厳しく身内からその身を正す、そのような姿勢がとも求められています。行政を効率的に、そして筋肉質に改革を断行し、将来に胸を張れる行財政改革の推進を目指します。

### 新しい総合計画の策定

総合計画は市政にとってとても大切な基本指針だと思います。その基本指針を、狭い市役所の中だけで考えるのでは、あまりにも視野が狭くなる危険性があります。市民の皆さんと膝を交えた論議をつくすなか、新しい小矢部市を夢描き、ともに計画を語りあい、大切に書き上げていきたい。私は市民のみなさんとともに、小矢部市の新しい総合計画の策定を目指します。

### 桜町遺跡周辺施設整備事業の推進

桜町遺跡は素晴らしい遺産だといえます。縄文時代早期にまでさかのぼることができるこの遺跡は日本だけではなく、世界中が驚嘆する誇れる歴史ある遺跡です。この桜町遺跡周辺を国や県と連携しながら大切に整備し、多くの方にその魅力に触れていただきやすくすることは、郷土に対する誇りを醸成するためにもとても大切なことです。この小矢部に存在した古来の遺跡を大切に、郷土伝来の文化を大切に守り続けることは私たちに課せられた使命だと考えています。

## 4. 4年間でやる重要施策:優先順に3つ

### オーダーメイド方式による企業誘致並びに既存企業の支援

いまや企業変革の速度が急速に速くなっている時代です。このような時代に一律の企業誘致・企業支援を行っていても本当の企業支援とはならず、企業の誘致・支援・育成も思うままに進まないと感じています。いまの時代に応じた企業総合支援が可能な市政を実現するために、私はBTO(ビルド・トゥ・オーダー=オーダーメイド)による支援を実行しようと考えています。これは最初に企業側に支援メニューを提示するのではなく、企業とともに企業が求める注文に対し、的確に対応し、スピーディーに実現していくというタイプの企業誘致策です。

### 農村環境を守る「農地・水・環境保全事業」の積極的推進

現在、水牧地区で試行されている「農地・水・環境保全事業」を市全域で取り組み、農村環境を守り育てるようにしたい。具体的には、例えば、田の法面にヒメイワダレソウ(わい性で被覆進展が早く、強健である。また、カメムシ類の寄生性は低く斑点米発生懸念も小さい。茎挿し育苗したポット苗を植えれば2ヶ月半で水田法面を被覆できる。)を植えて、草刈不要なわい性の草種で景観にも優れ、被覆進展が早く他の雑草に優占して進展する法面保護植物を選択して、法面管理の合理化を図る。さらに6月から9月まで白い小花がカーペット状に咲き、大変美しい。

また、ほたるの里、ピオトブや花々があるなど地区の特色を生かし、農村環境を守り育てていきたい。

ところで皆さんは小矢部に生息するハッチョウトンボをご存知ですか。1円玉ぐらいの大きさのかわいらしいトンボは、見るものを笑顔にする力があります。環境省指定指標昆虫の一つで、綺麗な湧き水の有る湿原にしか住めないトンボです。すっかり希少生物となった今でも、小矢部では力強く飛び姿がみられます。このような環境を大切に保存し、次世代に伝え、伝統と誇りを感じる郷土を作り上げたいと考えています。

### 商店街の空き店舗を再生し、まちなか文化発信拠点としてのにぎわいの創出

私は商店街のにぎわいが小矢部の発展には不可欠だと考えています。商店街のにぎわいをもっともっと創出したい、そのためには魅力ある仕掛け作りが不可欠です。商店街全体の回遊性を確保し、歩いて楽しみながら買い物が進む仕掛けとして「芸術」「文化」を利用した文化発信拠点を商店街に整備します。現在、空き店舗となっているお店を魅力あふれるギャラリーとして利用し、さまざまな人が訪れたい商店街を目指します。